

令和5年度

# いじめ防止及び情報モラルに係る 児童生徒の主体的な取組事例

県立学校版

いじめ防止に係る児童生徒の主体的な取組事例

岩手県立釜石祥雲支援学校

情報モラル教育等に係る生徒の主体的な取組事例

岩手県立遠野高等学校

岩手県立久慈工業高等学校



取組事例から学ぶ

いじめ防止及び情報モラルに係る児童生徒の主体的な取組のポイント

- 1 児童生徒が計画段階から関わること
- 2 児童生徒が考え、議論する場を設定すること
- 3 取組のねらいを教職員と児童生徒との間で共有すること
- 4 保護者や地域と連携すること
- 5 各教育活動との関連を図り、意図的・計画的に実施すること
- 6 人権教育の視点から、自分や他の人の大切さを認めること



岩手県教育委員会

## 岩手県立釜石祥雲支援学校

## いじめ防止標語の取組

## 概要

## 1 本校の取組

全ての児童生徒が安心して学校生活を送り、日常生活を通じて、「お互いのよさを認め合い、みんなと協力して活動できる人」を教育目標に掲げている。令和4年度から「いじめ防止標語」を高等部の生徒会を中心に作成している。児童生徒の自主性を大切にして、相手を思いやる気持ちを育んだり、仲間意識の向上を図ったりすることを目的として取り組んでいる。

## 2 児童会・生徒会の取組事例

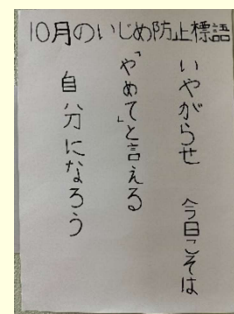
- (1) 学部集会や合同朝会の運営（小学部・中学部・高等部）
- (2) いじめ防止標語ポスターの作成と掲示（高等部）
- (3) 長期休業中の生活指針の検討（高等部）



学部集会の様子



いじめ防止標語の検討



いじめ防止標語ポスター

## 3 取組を通して（高等部）

活動当初は、どのような標語にしたらよいか、どの場面で児童生徒に紹介したらよいか等、模索しながらの活動だったが、少しずつ生徒たち自身が考え、進められるようになってきている。また、高等部の生徒たちの様子から、日常生活でトラブルがあった際に、自ら教師に相談する場面が増えたように感じている。児童生徒が自分たちで活動を進める機会を増やししながら、いじめ防止はもちろん、望ましい集団活動、規範意識の構築に努めていきたい。こういった経験を積み重ねることで自信を深め、自己有用感や自己肯定感も高めていきたい。

## 成果

- ・「いじめ」に関しての捉え方の理解を促す取組になっていると考える。
- ・いじめ未然防止の活動を児童生徒から発信することで、生徒間での規範意識の醸成を図ることができる。

## 課題

- ・小学部から高等部までの児童生徒が共に活動する場面の設定。
- ・児童生徒の実態を踏まえ、善悪の判断を場面を捉えて、継続して学習していくことが必要。

岩手県立遠野高等学校

様々な生徒集団に対応した情報モラル研修会

概要

1 本校の試み

インターネットは、年齢を問わず多くの人々が利用しており、豊かな生活をもたらす便利なツールになっている。しかし、使い方次第では、人間関係トラブルの原因となり「ネットいじめ」に発展することや、思いがけない犯罪に巻き込まれる可能性を高めてしまう。よって、本校では生徒の情報モラル向上については、生徒の実態に応じた研修を実施し、必要に応じて繰り返し指導を行っている。

2 情報モラルに関する指導の取組事例

- (1) 全校生徒を対象に、携帯電話・インターネット講座  
新年度を迎え、携帯電話やインターネットの利用によるトラブルを未然に防ぐことを目的に毎年実施している。
- (2) 部活動単位の情報モラル研修会の開催  
岩手県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策室の職員を講師として招き、情報モラル研修会を開催した。
- (3) 全校生徒を対象にした2回目の情報モラル研修会の開催  
SNSに関するトラブルが発生し、再度、全校生徒を対象に情報モラルに関する指導を実施した。
- (4) 情報モラルに関する生徒事案に対しての学年集会の開催



マナーアップ講座の様子



全校生徒を対象に2回目の情報モラル研修会の開催



この研修会の模様については、本校のnoteでも「情報モラル研修会」というタイトルの記事として紹介しています。

3 取組を通して

これまで情報モラル講座は年に一回の開催であったが、今年度においては必要に応じ全体での講座や部活動、学年集会等で情報モラルに関する指導を複数回行った。いずれも対面で実施し、生徒はスマホ利用によるトラブルや、いじめから犯罪へ発展する危険性を理解し、トラブルに巻き込まれないための具体的な対策を主体的に考えることができた。今後も必要に応じ柔軟に研修を続けていきたい。

成果

- ・対面型の講座や集会を複数回実施することで、内容を絞り込み効果的に生徒へ伝えることができた。また生徒は、インターネットによる犯罪に巻き込まれないよう、自分が何をすべきか具体的な対策を考えることができた。

課題

- ・問題行動の未然防止を含め、対策を講じるための体制を事前に整えること
- ・学校だけではなく関係機関と連携しながら、生徒の情報モラル向上に向けた取組を進めていくこと。

岩手県立久慈工業高等学校

情報モラル意識向上を目指した動画制作

概要

1 本校の試み

本校のスマートフォン使用規定は、授業で活用する時間以外は、各自で電源を切り、鞆にしまうことになっているが、校内における使用規定は概ね守られており、問題はない。しかし、コミュニティサイトの利用方法については、個人情報や他人の画像等の投稿など、使用上のマナーやモラル意識が極めて低く心配な者も少なくないため、効果的な指導を継続して実践していく必要性を実感している。

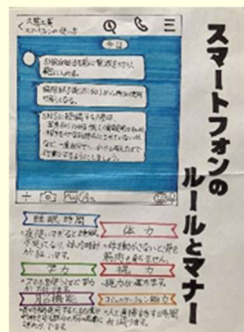
そこで生徒会執行部は、スマートフォン使用時の情報モラル意識向上を目的とし、生徒自身が撮影した日常生活の動画や写真などを集めて文化祭で上映する動画を作成することを企画した。撮影する上で注意することは、上映するのに相応しいものであることとし、募集した。また、スマホマナー向上ポスターを作成し、クラスに呼び掛けたり、掲示したりする取組により、生徒たちが主体的に取り組んでいる。

2 情報モラルに関する取組事例

- (1) 動画作成に使用する素材の募集案内
- (2) 生徒会執行部による動画作成と上映
- (3) スマホ使用マナー向上の呼びかけおよび作成と掲示



生徒総会で呼びかけ



作成したスマホマナー向上ポスター



文化祭での動画（一部）

3 取組を通して

校内での使用は、ほとんどの生徒が使用規定を守り問題はない。しかし、帰宅後のコミュニティサイト等の利用については、危機感が乏しく、安易に自分の個人情報をアップロードしてしまう生徒も少なくない。このような行動が常態化してしまっているのか、他人の写真や動画などもアップロードすることについて、問題意識が極めて低いように感じる。

文化祭で公開上映する動画を作成するために、生徒会執行部が全校生徒に情報モラル等をしっかり意識したうえで撮影することを呼びかけた。この取組は、日常のスマートフォンの使い方を考える良い機会になった。文化祭で公開した動画は、生徒が学校生活を楽しんでいる様子がまとめられており、文化祭を盛り上げるものとなった。

また、作成したポスターには、情報モラルだけではなくスマートフォンが人間に及ぼす危険性などにも触れており、幅広い内容のものになっている。

成果

- ・生徒会の主体的な取組により、スマートフォンの使い方やコミュニティサイトの活用について、自分のこととして考える意識付けにつながっている。
- ・これまで生徒会執行部は、行事の企画運営が主な役割であった感があるが、現在は今ある問題について議論し、自主的、主体的に問題解決していこうとする、より活発な生徒会運営がなされている。

課題

- ・現状維持ではなく、高校生活を充実したものとなるよう自分たちで取り組める活動を増やさせながら、本校の問題は、全校生徒が自分のこととして捉えられるような問題意識の向上と工夫が必要である。